

藤枝市教育委員会

令和8年1月定例会会議録

藤枝市教育委員会 令和8年1月定例会会議録

- 1 開 催 日 令和8年1月22日
- 2 場 所 藤枝市役所西館5階 第2委員会室
- 3 会議に附した事項 (別紙のとおり)
- 4 出席委員
教 育 長 中村 禎
教育長職務代理者 永田 恵実子
委 員 福與 繁太郎
委 員 渡邊 博文
委 員 永田 奈央美
- 5 出席した事務局職員
教 育 部 長 増井 孝典
教 育 政 策 課 長 金原 雅之
学 校 教 育 監 三須 貞佳
主 席 指 導 主 事 道越 洋美
生 涯 学 習 課 長 小西 ゆう子
学 校 給 食 課 長 村松 雅弘
図 書 課 長 杉本 守

教 育 政 策 係 長 大石 朋晴
書 記 岩瀬 直輝

教育委員会 令和8年1月定例会

日 時 令和8年1月22日 午前10時
場 所 藤枝市役所西館5階 第2委員会室

1 開 会 午前10時

2 会議録署名委員氏名 永田恵実子委員、永田奈央美委員

3 日程第1

第1号議案 藤枝市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について

第2号議案 「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」等の改正に伴う関連規則の一部改正について

4 日程第2 諸般の報告

学校給食課長 公立小学校の給食費の保護者負担軽減（国の給食無償化）について

生涯学習課長 令和8年「はたちの集い」の開催結果について～次代を担う二十歳の若者を祝福～

図書課長 第18回よむゾーくん大賞 応募状況及び表彰式について

蔵書点検に伴う図書館の休館について

5 閉 会 午前11時

開 会 午前 10 時

日程第 1

第 1 号議案

藤枝市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保
措置実施計画の策定について

福與委員

資料 3 ページの基本的な方針は、藤枝市として学校に示すもの
ということか。それとも文部科学省が示したもののなか。

主席指導主事

市で作成している。

福与委員

承知した。意見をまた後で。

渡邊委員

働き方改革ということで、令和 4 年度から始めている中で成果
と課題について教えてほしい。

主席指導主事

成果としては、教職員の働き方への意識の変化が大きいと受け
止めている。

集計作業等の事務作業の効率化。

「勤革時」という勤怠管理システムの導入など、勤務時間への
意識が変わることで、ワークライフバランスをだいた意識でき
るようになっている。

課題は、依然として突発的な業務や削減できない対応の発生に
より、月 80 時間や 100 時間を超える長時間勤務がわずかながら
残っている。

渡邊委員

それらに対するフォローはどうなってるか。学校や教育政策課
での把握した上でどうしているか。

主席指導主事

管理職は超過勤務の多い職員を把握している。職員が抱えてい
る業務を学年やチームで分担する、人事面談等で働き方の相談
をする、上司がサポートするなど、学校の方でもフォローをし
ている。

渡邊委員

学校現場の中で、1 人に任せるのではなく、カバーし合える組
織づくりを推進してほしい。

永田恵実子委員

実施計画 6 ページの 4 に長時間勤務が見込まれる場合には、校
長が面談等を実施するとあるが、本人から希望することはでき
るのか。言いづらくてできないということはあるのか。

主席指導主事

市で毎年実施しているストレスチェックの中で、ストレスを抱
えている教員は医師の面談等を受けることができる。職場の風

通しをよくして、いつでも相談できる体制作りには、学校も力を入れている。

永田奈央美委員

デジタル技術を活用した業務の効率化については、県の教育委員会では高等学校全てに「百問繚乱」という自動採点システムを取り入れ、業務の効率化に繋がっている。その結果を、次の授業改善に活かし、教育の質も高まっている。細かい改善より一点において大きな変革した方が効果があるのではないか。働き方改革にも繋がると思うが、本市ではそういった自動採点システムの導入を検討しているか。

教育政策課長

自動採点システムに関しては先生方から多くの要望がある。何のシステムを導入するかは検討が必要だが、ICTを活用して先生方の負担軽減をし、その結果子どもと向き合う時間を確保することが重要であると考えている。今後検討を進めていきたい。

福與委員

基本的な方針に記載する業務の3分類を踏まえた業務の見直しの学校以外が担うべき業務について、文部科学省は保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等への対応は、学校の業務でないと、踏み込んだ方針を出している。市の資料の表現ではピン트가ずれているのではないか。明記したほうがよいと考える。

主席指導主事

資料には取組例として参考情報を載せている。具体の取組については各学校の実情に応じて記載することとしている。

福與委員

クレームの対応というのはめったにあることではないが、一度起こると、時間も労力も割かれ、先生の負担も大きい。結果的に業務がかなり圧迫されるため、書き込んでおいていただきたい。いわゆるカスハラに対する研修についても、管理職を対象に実施してほしい。対応する場合と断る場合の線引きをはっきりさせたい。保護者との信頼関係を大事にするあまり、受け入れがちな傾向があるが、そうでないことを示すことも必要だと思っている。

第2号議案

「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」等の改正に伴う関連規則の一部改正について

なし

日程第2 諸般の報告

公立小学校の給食費の保護者負担軽減（国の給食無償化）について

なし

令和8年「はたちの集い」の開催結果について～次代を担う二十歳の若者を祝福～

福與委員

20歳の集いにお招きいただき感謝申し上げます。分散方式と比較して、市長から直接言葉をいただけるのは、良かったと感じました。プログラムもよく工夫されていた。地域の方々からのお祝いメッセージもミニコンサートも良かった。市制70周年の記念式典のボリュームのある動画のように、藤枝市の過去と現在、未来を見据えたPR動画があるとはたちを祝う式典として素晴らしいものになると感じた。

生涯学習課長

今回ミニコンサートを採用して、アトラクションという形で15分程度藤枝出身の団体の方にお問い合わせをしたが、どのような団体と呼ぶか、どのような出し物にするかというのは、担当も頭を悩ませていた。ご提案の過去現在未来を見据えた動画は、非常に良いアイデアとして、参考にさせていただく。

藤枝市民大学 第5期生の募集について

藤枝市民大学第5期生の募集にあたっては、これまでの実績も踏まえ、どのような受講生に訴求すべきかを整理していく必要があると考える。毎年、同じような層が継続して受講しているのか、それとも新たな層が参加しているのか、年齢層や属性はどうかといった点を把握したうえで、受講生が何を求めているのかを明確にしたい。その分析結果によっては、例えばリカレント教育としての位置付けや、1回180分という授業時間が適切かどうかといった点も含めて、マーケティングの在り方を検討する必要がある。そのためにも、まずは想定すべき対象者像を明らかにしたい。

一般教養コースは、リピーター率が約50%と高く、毎年継続して受講している人が多いことが特徴である。受講者の年齢層は60代、70代が中心であることから、来年度は話題性のある著名な講師を招いた講座や、地域に密着した内容、市の政策と関連したテーマの講座を充実させる予定としている。

一方、リカレント教育・ビジネス系コースは、仕事をしながら受講する30代から50代の層が多い。アンケートでは、10講義を1年間かけて受講する形式は期間が長く、仕事との両立が難しいという意見が多かったため、5コマを2～4か月で実施する短期・集中的な講座構成に見直した。

また、講座の進め方については、受講者が業務上の課題を持ち寄り、受講者同士の意見交換や討議を行いながら、講師の助言を得る双方向型の形式を採用している。第5期では、企業の人材育成への活用も視野に入れ、平日開催や一部講義のライブ配信など、新たな受講形態も試行する予定である。

第18回よむゾーくん大賞 応募状況及び表彰式について

なし

蔵書点検に伴う図書館の休館について

なし

閉 会 午前 11 時